

岩手社保協ニュース

2020年2月7日(金) No3(通刊103号)

〒020-0015

盛岡市本町通2-1-36 浅沼ビル6F

TEL・FAX 019-654-1669

E-mail i-shahokyo@aurora.ocn.ne.jp

中央社保協代表者会議

「全世代型社会保障」政策のウソ、ごまかしを許すな 「守ろう！！社会保障！！全国アクション」共同行動の前進を

中央社会保障推進協議会は5日、参院議員会館で全国代表者会議を開き、「全世代型社会保障」政策のウソとごまかしを許さず、「守ろう！社会保障！全国アクション」共同行動を呼びかけました。

岩手社保協から高橋事務局次長が参加しました。

あいさつに立った住江代表委員(全国保険医団体連合会会長)は、「大企業・富裕層が手にする余剰価値の最大化を命題とする政治が、この通常国会で全世代型社会保障という名の所得再配分機能の解体の総仕上げにかかっている」として、「全世代型社会保障」との全面対決を呼びかけました。

山口事務局長は基調報告で、年金支給開始年齢を75歳まで延長できる年金改定案を批判。70歳までの就労をすすめる法案も提出される予定だとし、「働かざるを得ない高齢者や女性を、安く、企業責任のない『働き手』として使うための法に反対の立場で運動を強めよう」と呼びかけました。

また、各地の社保協が公的病院つぶしに対抗する運動の結節点となり、国民健康保険料(税)をめぐって「給与差し押さえは違法」と断じた大阪高裁の画期的判決(昨年9月)を各自治体の担当者に届けるなど、地域での社会保障充実の運動に奮闘していると語りました。

7団体、22県社保協から報告

討論では、7団体、22県社保協から発言がありました。

●75歳以上の高齢者の窓口2割負担について、日本高齢期運動連絡会の代表は、「応能負担原則とは、税や保険料に対するものであって、サービスを受ける際の窓口負担を増やせば、受診抑制になる」と述べ、「安倍流」負担引き上げの論拠を崩す学習会を呼びかけました。

神奈川では独自署名を10万筆目標に取り組むため、4月にスタート集会を行うと述べました。

●公的・公立病院つぶしに対する運動について、各病院や自治体との懇談・要請を実施し、独自署名

に取り組むなど、病院・自治体・住民が一体となった運動の報告が多数ありました。

一方、名指しされた病院の中には、ベッド削減をすれば、補助金が多くもらえることを良しとする姿勢も見られたので、注意が必要だという発言もありました。

●生活保護費減額処分取り消しを求める裁判で、全国のトップを切って6月25日に名古屋で判決が出される予定です。2月23日の大決起集会参加と署名の呼びかけがありました。

●高すぎる国保税の問題では、横浜市が短期保険証に続き資格証明書の発行を全面的に取りやめにしました。一方で取り立てがすさまじくなっているとの報告がありました。

全商連からは、独自調査で子どもの均等割の減免制度が全国31の自治体で行われているとして、全自治体に広げようと訴えました。また、时限措置として行っている自治体もあるため、条例で定めさせる必要性を述べました。

●特養ホームあづみの里事件の不当判決(長野)、旧優生保護法による強制不妊訴訟(宮城)、天海訴訟・障害サービス支援打ち切り(千葉)、乳腺外科医師冤罪事件(東京)などの取組みと支援の訴えがありました。

「全国アクション」の成功を！

是枝事務局次長は、4月13日の「守ろう！社会保障！全国アクション」成功へ、各地・課題ごとの「1分動画」の制作、介護制度の検証と「提言」づくりの参加を呼びかけました。



あいさつする宮本徹衆院議員

倉林明子参院議員がメッセージを寄せました。

公立・公的病院 424 問題 自治体病院訪問

国保種市病院

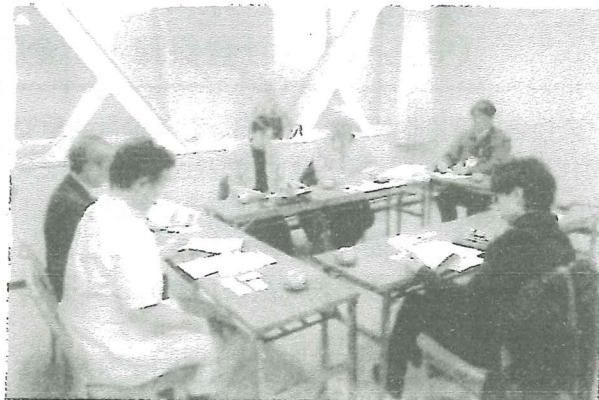
磯崎一太病院長と懇談

「名指し」の手法には驚いたが、(地域医療構想で)国がせつづいている。

1月23日、「地域医療を守る岩手県連絡会」(岩手自治労連、いわて労連、医労連、県医労、社保協等で構成、公立・公的病院と地域医療を守るために2019年11月に再結成)は、国保種市病院を訪れ、磯崎一太病院長へ要請と懇談を行いました。安藤事務長が同席されました。

この取り組みは、昨年9月26日、厚労省が「地域医療構想」をふまえた公立・公的病院の「具体的対応方針」に関して、「再検証」を要請する424病院の名前を公表、公立・公的病院つぶしをあからさまに進めようとする攻撃に対して、岩手県では10の病院施設が名指しされたことから、これまで病院長などとの要請・懇談を実施してきた一貫として取り組まれたものです。

この行動には、中野・医労連委員長、和田・県医労執行委員、高橋・県社保協事務局次長、間澤・洋野町職執行委員長、渡辺・岩手自治労連書記が参加しました。



磯崎病院長、おおいに語る。要請者も感動、共同を実感！

「再編・統合はありません。地域と住民にとって、なくてはならない病院です。」

「県連絡会」は要請の趣旨について話し、厚労省の発表や、種市病院についての考え方をお聴きすると、磯崎院長は明快に次のようにお話しされました。

【磯崎病院長】



●厚労省の発表の仕方・手法には少し驚いたけれど、これは国が(地域医療構想の進展で)せつづいている、焦っていることの表れだと思っています。岩手県は「地域医療構想」でも地域の理解のもと進んできているし、県内での(公立・公的病院は)再編・統合はないと思っています。人口減や患者数の減などがありますが、種市病院でもH29からH30にかけて4床のベッドを削減しているのです。

今回の発表は「急性期」を告示した病院を対象としたため、当院が該当しただけであり、心配はしていません。

●なによりも種市病院は、地域と住民にとってなくてはならない病院だと思っていますし、町(首長、議会)や町民の方から支えられています。(再編や統合については)まったく心配していないです。

●地元住民の方が他の病院で手術などをされるなどして、その後地元に戻って来る際に、安心して治療・療養できるベッド(入院施設)が必要です。その役割も種市病院は担っているのです。私はいくつかの県立病院にも勤務していましたし手術などもしましたが、「診療センター(無床)」になって住民の負担は本当に重くなったと感じています。

●私は、種市町の「奨学生第1号」です。数年後にまた若い奨学生がこの洋野にくる時期を迎えます。その時にちゃんと種市病院として残して引継ぎたいと思っています。

みんなの取り組みには支えられるし、本当に心強いでです。

磯崎病院長は、「こうしたみなさん、地域医療を守る岩手県連絡会の取り組みは私たちも支えられるし、心強いと感じています」と話されました。県連絡会では引き続き、地域での住民をまじえた集会やシンポジウムを計画していること、「424署名」に取り組んでいることなどを伝え、懇談を終えました。

記事は岩手自治労連闘争速報(1月24日付と1月29日付)より許可を得て転載しました。

国保藤沢病院

佐藤元美病院長と懇談

「従来より経営プラン立て、人口減見据え見直している。住民にとって使い勝手のいい病院としたい。」

1月28日、「地域医療を守る連絡会」では、両磐・一関にある「国保藤沢病院」を訪問、阻止鶴元美病院長と懇談しました。この懇談会にはいわて労連・金野議長、中野岩手自治労連執行委員長、千葉両磐労連議長、熊谷同務局長、鈴木県医労副委員長、一関市職労で藤沢病院勤務の組合員2名が参加、地域になくてはならない病院つぶしの攻撃に対して、一緒に運動をと呼びかけました。



藤沢病院からは佐藤元美病院長と鈴木事務局長が参加されました。

冒頭、金野議長から今回の訪問と懇談の目的、特に昨年9月に厚労省が一方的に県内10病院を「名指し」して「病床数」などの再検証を押し付け、地域の実情を無視したやり方についての見解を求めました。

佐藤元美病院長・病院事業管理者からは「そもそも病床の問題だと捉えています。収益対策として7対1を拡大したために急性期病棟の急増や看護師附則が深刻化し、従来の病床のバランスが崩れました。厚労省は高度急性期に絞ろうと躍起になっているが、議事録を見ると公表(病院名)について深く議論されないまま踏み切ったように見える」と厚労省の今回の手法に疑問を呈しました。

また「当院としては従来から経営改革プランをたてて、人口減に合わせて随時見直しを進めています。4月からは地域包括ケアベッドを増やす予定です。機能分化と連携が大事」と強調されました。

「地域に必要な医療の提供=ヒット・トウ・ユースだ。」

佐藤先生はさらに自分の専門分野(呼吸器)で「プロンコファイバー」も年間25例実施するなどしていましたが、現在は県立磐井病院にこれを移すなど「病院間の機能分化・機能連携が必要」とし「フルスペックを揃えるのではなく、地域に必要な医療を提供していく『ヒット・トウ・ユース』が大事」と話されました。

藤沢病院が独自に実施している「地域ナイトスクール」について、佐藤院長は「今回のことでの地域と住民の方々が大きな不安をいだいており、これを払拭したい」「地域や住民にとって使い勝手の良い病院とするためにこれまで住民参加の勉強会を継続してきた」と話されました。そして藤沢病院の特徴として、「100世帯の訪問診療を実施していることや、「併設している老健や特養など医療・保健・介護を組織体としてやっていることも強調されました。

最後に、「地域医療守る岩手県連絡会」として現在取り組んでいる「424署名」への協力をお願いして懇談と要請を終了しました。

「424病院署名」を住民とともに思い切って取り組もう！

岩手自治労連では、自治体病院のある単組にとどまらず、すべての単組で取り組みを行っています。一関市職労では、すでに組合員数に迫る約800筆を集約していますし、洋野町職、八幡平市職、岩泉町職でも「3桁」の署名集約となっています。(岩手自治労連で現在約1,300筆)

また「地域集会」も当面、奥州市と軽米町で開催されます。近隣の単組では「地域集会」への参加の取り組みも合わせてお願いします。

地域医療考えるシンポジウム

◆記念講演とパネルディスカッション◆

奥州市長などもパネリストに

- 日 時 2020年2月29日(土)
12:30 開場
- 場 所 奥州市文化会館
(乙ホール展示室)
- 入場無料 ●主催 胆江労連

地域医療を守る住民集会in軽米

◆記念講演◆

石木幹人(陸前高田市二又診療所長)

- 日 時 2020年3月8日(日)
13:00 開会
- 場 所 軽米町立「中央公民館ホール」
- 入場無料
- 主催 地域医療守る県連絡会